

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 11 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0590400081号
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会
事業所名	グループホーム山王台
所在地	大館市池内字上野234-1 (電話) 0186-43-3888

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年10月7日

【情報提供票より】 (平成21年8月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤 6 人 非常勤 3 人 常勤換算 8.25 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての ~ 1 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松内科胃腸科医院 神成歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「環境を整え一人ひとりのニーズを把握して安らぎのある生活が送れるように支援します」を理念として掲げ、それを具体化したケア方針も定めており、BS法を用いて「自分や家族が生活したい」との視点で職員間で話し合いながら理念をつくり上げている。
事業所は比較的新しい住宅街にあり、民家と違和感のないモダンな造りで周囲に溶け込んでおり、地域の福祉拠点として地域と積極的に関わりながら利用者の快適な生活環境づくりに努めている。
また、管理者の認知症ケアに対する意識が確立されており、認知症という視点ではなく一人の人として当たり前の生活を送ることを支援する姿勢のもと、職員と一体となって様々な工夫や実践につなげている。
そのため、職員一人ひとりの目標やビジョンをキャリアアップシートで明らかにし、研修計画に反映させながら職員の専門性の確保と段階的なスキルアップを図っている。
利用者の生活スタイルは都会的で、地域の関りや認知症ケアに対する理解も理想的であり、地域密着型サービスのモデル的存在として今後の取り組みが期待される

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 施設介護経過記録を見直し、利用者の一日の状態を時系列に把握できる様式に変更しているほか、3か月を基本としていた見直しも、日常的な状態観察を重視したことで6か月に変更している。 また、玄関を開放するためにソファを設置したり、避難訓練時のプレートの活用など、日々の実践を踏まえて職員間で検討しながら改善につなげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は外部評価の意義や目的を十分理解しており、管理者を含め全職員で検討しながら自己評価に取り組み、管理者が一つにまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の日常をビデオで見てもらい、事業所を理解してもらうなど工夫しているほか、認知症サポーター養成の地域開催や緊急協力員の増員など、会議での提案を具体的な取り組みにつなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎年開催している事業所説明会や家族の面会時に家族全員から意向等を確認しており、利用者の個人情報の取り扱いを指摘された際には、速やかに職員間で協議のうえ取り扱いを徹底している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、管理者が町内会役員(文化部副部長)を努めており、町内会行事への参加や山王台フェスティバルへの招待などを通じて相互に交流を図っている。 また、認知症サポーター養成や緊急協力員による災害時に連携・協力など地域の福祉拠点として一体となって取り組んでいる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営									
1. 理念と共有									
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの職員が事業所の職員として「どんな仕事をしたか。また、将来自分がどんなケアを受けたか」を毎年度初めに話し合い、事業所独自の理念作りをしている。				法人の理念及び基本方針に基づき、「環境を整え一人ひとりのニーズを把握して安らぎのある生活が送れるように支援します」を事業所独自の理念として掲げ、理念を具体化した事業所のケア方針も定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念（入居者に対する想い）を共有し、日々実践している。職員会議やケアカンファレンス録等でも確認し合っている。				理念の検討にはBS法を用い、職員や家族が生活したいホーム作りをめざすとの視点で話し合っている。 また、事務所内にも掲示し、会議等でも確認しながら実践につなげている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては都合をつけていただき、年に1回はホーム説明会を開催している。地域にはサポーター講座を開催したり、ホーム独自の行事を企画し地域住民を招いて理解を促している。						
2. 地域との支えあい									
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入会し町内役員にもなって、町内総会・役員会に積極的に参加し、気軽に交流できるよう努めている。回覧板をまわしていただいたり、たくさん採れた野菜をおすそわけしていただいている。						
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し町内行事に参加しているほか、町内老人会（寿会）の健康教室に参加したり、町内行事の準備段階からお手伝いしている。				町内会に加入し、管理者が役員（文化部副部長）を務めており、清掃活動や地域の祭りなど積極的に関わっている。 また、山王台フェスティバルやたんぼ会など事業所の行事があれば町内回覧で参加を呼びかけ、地域の方々や学生も交えて交流している。 さらには、地域向けに管理者等が指導者となり認知症サポーターの養成を行ったり、近隣住民11名から緊急災害時の緊急協力員として登録してもらうなど地域と一体となって取り組んでいる。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	サポーター講座の開催により、地域住民から「ちょっと心配なお年寄りについて」相談を受けたり、必要な機関への相談を助言したり、対応の仕方を伝えている。						
3. 理念を実践するための制度の理解と活用									
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は必ず全員で行うこととしており、改善に繋がってきた。				職員は評価の意義や目的を十分理解しており、全職員で検討しながら自己評価に取り組み、管理者がまとめている。 また、評価後には運営推進介護や毎月の職員会議等に報告して共有し、再度自己点検しながら改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後は必ず会議の議題として取り上げ、率直な意見交換を行っている。			地元大学講師や老人クラブ会長のほか、行政担当者と地域包括支援センター職員も参画しており、事業所の様子をビデオで見せて日常を理解していただくなど工夫している。 また、外部評価結果を報告し、課題なども提起しながら具体的な取り組みにつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市がサポーター養成講座の事務局にもなっているため、その相談や開催状況の報告も頻繁にある。また、他地域の健康教室、サポーター講座の開催依頼も受けており、運営推進会議のほかにも行き来はたくさんある。			地域の認知症高齢者の困難ケースなど必要入居者に応じて相談したり、情報交換している。 また、地域包括支援センター主催の健康教室に参加したり、認知症サポーター養成では指導者を務めるなど連携している。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点で、権利擁護に関する研修は今まで全く無いが、今年度の認知症ケア内部研修の計画に予定を入れている（21年度末）。また、法人内研修会（9月 外部講師による）の予定もある。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で虐待防止について学習しており、全職員が理解している。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明しており、入居後においても質問・疑問点は随時ホーム側からも尋ねている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は全て文章で残すとともに、苦情解決責任者、第三者委員にも報告・相談の機会を設け改善につなげている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙・電話・面会時等を利用し、月1回以上は報告・相談をしている。ホーム全体の様子や行事のお知らせはホームたより（2ヶ月に1回）を活用している。			比較的家族の訪問が多く、面会時などに利用者の状況を伝えており、遠方の方には利用者が書いた手紙や電話などで報告している。 また、手書きの広報「スマイル」を2か月毎に発行し、写真やイラストを交えて行事など全体の状況を知らせ、温かみのある情報提供に努めている。 さらには、毎年開催している事業所説明会に全家族が参加し、日常生活や制度説明、今後の方針など情報交換する場を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・苦情受付・随時の相談・意見はいつでも受け入れる状態であり、改善につなげている。			毎年開催している事業所説明会には全家族が参加しており、情報交換しながら家族の意向等を確認している。 また、家族の面会が多いため、訪問時に何でも話し合える関係づくりに努めており、第三者委員を設置して苦情相談等にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上は職員会議・内部研修（1時間～2時間程度）を行っており、申し送りも十分に時間をかけている。必要であれば、個人面談も行っている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間入浴が可能になるように勤務時間の変更や、必要な時間帯に十分な職員が勤務するよう調整している。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動によるダメージがあることを運営者は十分に理解している為、よほどでない限り急激な人事異動は行っていない。また、必要に応じて個人面談を行い、離職を抑える努力を行っている。			職員異動時には管理者が職員の資質や適正を見極めながら配置を決め、新旧職員が1か月かけて利用者に関わり、利用者の負担軽減に努めている。 また、利用者の状況を一目で把握できるようケアマニュアルシートを作成し、ケアの標準化にも努めている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修・法人研修はもとより、外部の様々な研修の情報は全ての職員に周知されているし、職員一人ひとりが希望する研修や段階に応じた研修は積極的に参加するよう促している。新たに資格を得ている職員もおり、ホーム運営に役立っている。			独自の様式「マイパーソナルキャリアプランニングシート」により職員一人ひとりの短期・長期目標を作成し、ビジョンを明確にしたうえで自己研鑽につなげている。 また、シートを反映した年間研修計画を作成し、事業所内外の研修にも積極的に参加しながらスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のGHとの交流が今年度から始まっているが、他同業者との交流は少ない。運営推進会議において行政代表者には、他同業者との交流ができるよう要請している。	○	行政からの協力を得ながら、市内の同業者との交流が可能になるよう、引き続き要請していく。	圏域の連絡協議会が設立されていないが、法人内の系列事業所との交流を行い、地域の他事業所と交流する機会も設けている。	○	職員同士が互いに事業所を訪問して交流するなど、他事業所の活動や実践にふれることで知識・技術の向上につなげるためにも、県の連絡協議会等への加入が望まれる。 また、地域の連絡協議会設立に向け、行政に働きかけながら早期実現に努めてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	確実に休憩時間が取れるよう、休憩場所を確保し緊張や疲れが取れるようにしている。必要に応じて個人面談を行い、年次休暇を積極的に取り入れたりしている。また、年に数回ノミネーションの場を持ち発散している。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	必要に応じて個人面談をし、向上心を持ち続ける環境作りをしている。また、外部研修の情報を提供している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでには何回か事前面談を行い、希望や要望がホームで生かせるようにしている。センター方式を活用し、家族にも無理強いすることなくお願いしている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでには何回か事前面談を行い、希望や要望がホームで生かせるようにしている。センター方式を活用し、家族にも無理強いすることなくお願いしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時相談に応じており、必要な関係機関や医療機関等の助言をしている。また、担当の居宅ケアマネにも随時連絡をしている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	場に馴染むまで、本人・家族との話し合いは頻回に設けている。				利用申込みの際は担当者3名が事前面談を行い、自宅訪問などで利用者及び家族の意向等を確認している。 また、希望に応じて見学も行い、事業所の雰囲気などを体感したうえで利用につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	腹の底から笑ったり、時にはケンカ？をしたり、認知症という病気を意識することなく生活できていると思う。一緒に昼寝をしたり、肩を揉んでもらったり、料理方法を学んだりしてお互い様という生活が営めていると思う。				利用者の生活歴や職歴などを把握し、調理方法など学ぶことが多いが、高学歴な方や都会的な生活観の方が多く、これまで抱いていた高齢者像とは異なり都市型の生活を支援している。 そのため、老人クラブや町内会などにも積極的に出かけており、職員も新たな視点や技術での支援が必要だと感じている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に数回、「家族と一緒に昼食を楽しみましょう」という機会を設け、雑談をしながら楽しんで過ごしている。また、面会時等は「元気で過ごしている」ことを一緒に喜び、BPSDについては「元気の証拠」と介護問題にしない視点で話している。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係の修復ができていく家族は多く、面会や交流が増えている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問、馴染みの場所（理・美容院等）への訪問支援に努めている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士での人生相談、おしゃべり、肩の揉みあい、配膳・下膳の助け合い、トイレや居室誘導、家事参加の声の掛け合い等、互いに支えあいがあり孤立している入居者はいない。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された家族から近況報告があるなど、関係が続いている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接意向を伺っているし、本人、家族との意向が大きく食い違う家族は現在のところ、ほとんど無い。				利用者及び家族の意向を把握し、管理者が講師となって行動障害の疑似体験を行い、研修を通じて対応を理解しており、利用者の言動や表情など実際に関わりながら思いを感じ取るよう努めている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・居宅担当ケアマネより、入居前からの聞き取り、センター方式への記入をお願いし把握に努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の個人ケースへの記録はもとより、申し送り等で状態変化を確認しあい、次に繋げるチーム作りに努めている。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、それぞれの意見や想いを反映した介護計画書を作成している。				センター方式の24時間アセスメントまとめシート（ケアプラン導入シート）を活用し、また事業所説明会や面会時に確認した利用者及び家族の意向を基に、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろんのこと、現状に沿った見直しも随時行っている。				施設介護経過記録を1日の状態を時系列に把握できる様式に変更し、行動変化や表情などから常に状態把握に努めている。 また、3か月の見直しを基本としていたが、日常的な状態観察を重視したことで6か月の見直しに変更している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースへの記入はもとより、ケースカンファレンス記録を残したり、連絡帳を活用しながら、介護計画の見直しに生かしている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の負担が見られる入居者に対し、かかりつけ医に説明し理解を得て、職員の詳しい状態報告で受診している。外泊や遠方への結婚式出席支援、観劇外出、地域行事外出支援、家族の宿泊を行っている。			日常的な通院時の介助のほか、遠方での親族の結婚式に出席するため職員が付き添うなど支援している。 また、職員が認知症キャラバンメイトやレクインストラクターの資格を生かして地域に貢献している。 なお、今後はユニット増設と通所介護の開設を予定しており、地域ニーズに応えるべく準備を進めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	幼稚園・小学校・高校への訪問、町内会・近隣住民の避難時の駆けつけ、民生委員の運営推進会議への参加、買い物ボランティアの活用（週1・2回程度）、老人クラブ（町内会）盆踊りの指導と地域からの協力を得ている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅に戻るとき、居宅担当ケアマネや包括職員との話し合いをし、支援した。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき意見をいただいている。また、包括支援センターの開催する地域健康教室に入居者が参加している。					
	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はよほどの理由が無い限り、変更することは無い。薬局にも適切な服用の仕方を助言していただく等、適切な医療を受けられるようにしている。			利用前からのかかりつけ医を継続して受診しており、必要に応じて事業所の協力医への受診を支援している。 また、受診を基本としているが、歯科による往診もあり、医療機関と連携している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院が認知症について充分理解されているので、気軽に相談できる。また、必要に応じて脳画像撮影できる医療機関に紹介状を作成していただき、適切な支援につながっている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師やかかりつけ医の看護師、地域の認知症に詳しい看護師と気軽に相談でき、適切な医療機関へとつなげている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、管理者や職員が毎日のように面会に通うことで安心を得た。また、早期退院ができるように相談の機会（家族も）を設けてもらった。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在、ターミナルケアについて協力医院からは「現実的ではない」と助言を受けている為、考えてはいない。家族にはホーム説明会、随時の相談で、はっきりとホームの事情・現状を説明し納得を得ている。重度化した場合、自宅か、他施設か…と選択枝を準備し不安の解消に努めている。			現在の職員体制では看護師がいないため、協力医とも相談して看取りへの取り組みは行っていないが、家族からの相談や利用者の骨折からの回復を目の当たりにし、重度化の対応や看取りについて検討したいと意欲的である。	○	住みなれた場所で最期を迎えたいとの思いは利用者及び家族、職員にもあるため、主治医との連携や看護師の配置など実現可能な体制整備に向けて、法人と一体となって検討していくことを期待したい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今現在、ターミナルケアについて協力医院からは「現実的ではない」と助言を受けている為、考えてはいない。家族にはホーム説明会、随時の相談で、はっきりとホームの事情・現状を説明し納得を得ている。重度化した場合、自宅か、他施設か…と選択枝を準備し不安の解消に努めている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前後に情報交換をし、少しでもダメージを受けないようにしてきた。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに関して、随時申し送り時や日常的に注意をし合っている。記録に関しては、書庫を活用しプライバシーの確保をしている。			自宅ではないとの前提で、利用者にもできる限り認識してもらい、そのうえで帰宅願望のある方への言葉のかけ方を工夫するなど職員間で確認しながら接している。 また、個人情報の取り扱いに関して同意書を整備し、個人ファイルや関係書類等はキャビネットでの保管を徹底している。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い・希望を念頭に置いた対応を心かいている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診などその日のうちにやらなければならないことは優先しているが、それ以外は特に業務内容は決まっておらず、日々自由なペースで生活している。			体操やおやつ時間は決めているが参加は自由で、アイスクリームを1日数個食べる方には体調を確認しながら対応し、老人クラブや健康教室に参加する方など、基本的に利用者のその日の状況に合わせて過ごすよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人がその日に着たい服と一緒に選ぶようにしている。理・美容院は本人・家族の好きな、馴染みの店に行っている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、法人内の管理栄養士の作成した献立指示書を使用しているため、栄養バランスは優れている。しかし、その日に畑で収穫した野菜等を使ったり、入居者の好みを聞き変更したり、食材の買出しも入居者と行っている為、好みで買ってきた材料で下準備から調理・後片付けを行っている。			法人の管理栄養士による献立指示書に基づき、利用者と職員と一緒に食事の準備を行い、畑で採れた野菜も使っている。 また、利用者の要望等に応じて献立を変更したり、出前や外食なども頻繁に取り入れて食を楽しめるよう工夫している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族に準備していただいたり、一緒に好きな物を買に行ったりしている。好きなときに自由に出かけ購入し楽しんでいただいている。のんびり、ゆっくり買い物できるよう、買い物ボランティアも活用している。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人ひとりの排泄パターンが把握できている為、日中及び夜間の紙パンツ・尿取りパットは必要最小限に使用できている。また、自然なお通じになるよう寒天ゼリー・ヨーグルト・牛乳のデザート、オリゴ糖の使用で、下剤の使用を最小限に抑えている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴が可能になるように勤務時間の変更や、必要な時間帯に十分な職員が勤務するよう調整している。したため、どんどん自分の希望が出るようになり、一人ひとり入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる方も今のところいない。			週3回以上で日中の時間帯を入浴時間としているが、利用者の希望に随時対応し、夜間入浴にも対応できるよう職員配置を調整している。 また、水虫の方への足浴や起床時の陰部洗浄など清潔の保持に努めているほか、近くの温泉に出かけたり、同性介助についても意思を確認しながら支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は適度に休めるよう昼寝（30分～45分）を勧めている。また、必要であれば一緒に布団で休むこともある。夜は就寝前に入浴をしたり、好みの飲み物を提供したり、不安を訴えてこられる方とはじっくり話を聞くなど、安心して眠りにつけるよう支援している。眠剤の使用もない。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味を開き取りし、裁縫・編み物・読書・ジグソーパズル・計算ドリル・家族への手紙書き・観劇鑑賞・買い物・行楽地への外出・畑仕事・食事作り・後片付け・洗濯干し、たたみ・掃除機かけ・今できそうなボランティア活動（雑巾縫い・ナイロンたわし編み等）を自由に行っている。			趣味や生活歴から得た活動を日常的に行うため、調理や掃除、洗濯物たたみなど自発的な活動の継続を支援している。 また、活動の評価は利用者の表情や行動などから見出し、そこから新たな取り組みにつなげるなど多種多様な活動を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のお小遣いは、多い方で2万円程度所持されている。買い物では、時間はかかっても自分で財布から出し使っている。また、自分で小遣い帳を書いている方もいる。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望で自由に外出できており、希望が出されなくても積極的に外出の支援は行っている。畑もあるので、ホームの出入りは自由である。			利用者の希望による自由な外出を支援しており、老人クラブや健康教室、外食や温泉などに頻繁に出かけており、日常的にも周辺を散歩している。 また、歩行低下がある方は車での遠出を支援し、社協の買い物ボランティアなども活用して外出の機会を確保している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいところへの聞き出しをし、積極的に出かけている。お墓参りはもとより、お墓の掃除にも一緒に出かけている。家族にも相談し理解を得て、外出できている（遠方での結婚式等）。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由であり、自分でかけられない場合は職員が手伝っている。職員が家族へ電話するときも、できるだけ本人も出ていただき、交流を促している。手紙のやり取りもある。月1回発送するおたよりの中に本人直筆の手紙を添えている方もいる。書字のできない方は職員が代筆を行うときもある。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように伝えてある為、家族以外（友人・知人等）の訪問もある。訪問時はゆっくり過ごすことができるように、テーブル・椅子・お茶・菓子を準備して活用している。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、身体拘束は絶対必要ないと考えている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全職員は、鍵をかけること・閉じ込めた状態に置くことの弊害を充分理解している為、玄関の施錠はもちろんのこと、外へ繋がるガラス戸にも施錠はしていない。			施錠することで外出に固執するのではと考え、常に玄関を開放し、玄関前にはソファを置いて一息つける場所をつくっており、テラスから外に出る方など利用者の外出時には職員が見守りを徹底している。	○	緊急災害時に駆けつけてくれる緊急連絡員がいるため、利用者の見守りや声かけなどの協力も呼びかけ、将来的には地域全体で利用者を見守る仕組みづくりを検討してほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、互いに声を掛け合い、さりげなく入居者の所在や様子を把握するようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を勘案し、裁縫道具（針・ハサミ等）を持っている方はいるが、使った様子が見られたときは、さりげなく職員が本数を確認している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に1回は、救命救急法を学ぶ研修会を開催している。また、毎月10日は自衛訓練日とし、隔月で日中想定と夜間想定を設定し、緊急時に備えている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	年に1回は、救命救急法を学ぶ研修会を開催している。また、毎月10日は自衛訓練日とし、隔月で日中想定と夜間想定を設定し、緊急時に備えている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	NO69・70の他、避難訓練には、地域・近隣住民の方にも参加いただいております。町内会には緊急時協力員も確保できた。消防法には触れないが、より安全に避難できるようスロープの設置を要請されているが、まだ設置していない。	○	スプリンクラー設置が平成22年度に予定されており、その際にスロープの設置が検討されている。	夜間を想定した避難訓練など町内会と合同で訓練を実施し、緊急連絡員として登録している近隣住民11名からも協力を得ている。 また、手製のプレートを各居室に設置し、避難の有無をプレートを倒して確認するなど工夫している。 さらには、行政の補助もあり22年度のスプリンクラー設置を予定しており、万が一に備えて非常食も備蓄している。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、家族へ説明し理解を得て、本人にとって窮屈にならない、圧迫感のない暮らしの支援に努めている。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひやり・はつとの報告ファイルを活用したり、日々申し送りに充分時間をかけたりしている。また、当日の出勤者で話し合い必要であれば直ぐに受診につなげ、急性でなければ管理者に電話報告して対応している。家族にも事の詳細を伝え、相談し今後の対応につなげている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容について把握・理解が出来るよう服薬リストがある。また、新しい服薬がある場合、医療機関や薬局にも理解をいただき、1週間～10日ぐらいの処方をしていただき、状態変化があれば直ぐに服薬内容の検討をしていただいている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘や下剤が及ぼす影響を理解している為、水分は1日1200ml以上摂取できるように努めている。起床時・就寝前、朝食時は冷たい牛乳や水を提供し、寒天・ヨーグルトを使ったデザートを曜日を決めて提供し安易な下剤の使用を避けている。また、必要に応じてオリゴ糖の提供もしている。午前10時のおやつ前はラジオ体操を行っている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後職員とともに、居室や洗面所で口ゆすぎや歯磨きを行っている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が、献立指示書を作成しているので栄養バランスは確保されている。食事・水分・体重・体温・血圧・排便は1ヶ月分が一目でわかるよう温盤に記入されている。咀嚼・嚥下状態を維持する為にも、食材は必要以上に細かく切らないことにしている。食欲の無い方には、習慣にしている食品（梅干等）を提供している。			法人の管理栄養士がカロリー計算や栄養バランスに考慮しながら献立指示書を作成しており、毎食後の食事・水分摂取量や排泄に合わせて水分補給を行っている。 また、下剤を使わないよう寒天やヨーグルト、朝の冷たい牛乳など便通を促す取り組みをしている。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策についてのマニュアルがあり、実行されている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所流しや調理用具は、毎日殺菌消毒している。食材は2日に1回、買出ししており、安全な食材の提供に努めている。また、畑からの新鮮で旬な収穫物も提供している。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	興味や関心を持ってホームに出入りできるように、玄関内に本棚を設置し、認知症ケアに関する書籍や漫画本を置いている。また、行事の写真飾ったり、町内の役員（町内文化部副部長）にもなっているので、役員表札を置いている。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、ホームの仲間（入居者と職員）がゆっくりと過ごす交流の場であると考えている為、装飾品は飾りすぎず、家具も置きすぎずを心がけている。臭いは無いが癒しの効果があり、入居者・職員からも好評を得ている為、1日に数回お香を焚いている。			事業所内にはソファーが多く、利用者と職員がゆっくりと過ごせる場所をつくり、バルコニーには目の前の畑が見渡せるよう木製のテーブルやイスを置き、五感で四季を感じられるよう工夫している。 また、包丁類は事務室から持ち出し、利用者の安心・安全の確保に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに座りやすい椅子やソファが置いてあり、入居者が好きな場所で思い思いに過ごし、役割仕事ができるようにしている					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた物品を持ってきていただけるように話しており、入居後に足りないものがある場合は、家族に持ってきていただいたり、本人が職員と自宅訪問し、取りに行ったこともある。反対に本人が物品によって不安になるようであれば、持って帰っていただくこともある。			使い慣れたタンスや学習机、家族の位牌など利用者の思い入れのある物を持ち込み、それぞれ自由に配置している。 また、ベットを好まない方は布団にするなど、利用者の生活習慣に配慮しており、各居室に洗面台を設置して利便性も考慮している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	特に冬季は換気時間が決まっている。夏季は常に窓を開けているため必要以上にクーラーは使用しないようにしている。気温・湿度計を設置し、入居者の体感・状況等もまめに観察して環境を整えている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は最初からバリアフリーで、廊下・トイレ・浴室・脱衣場の必要な部分には手すりが設置されている。また、車椅子になった場合を考え、居室・トイレ・洗面所は広く作られている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力・できる力・できそうな力・立ち直っていけそうな底力・老人力（知恵）を生かした、その人らしい生活ができています。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム前庭は、地域住民や隣接する居宅事業所職員と一緒にバーベキュー・運動会を開催したり、祭りのお神輿が集まる場になっている。ホーム裏は、畑があり野菜の収穫・花植えを楽しめる。ベランダは、洗濯物を干したり、タンポを焼いたり干し柿をつるしたり、外カフェ、体操を楽しんでいる。裏の林では山菜採りが楽しめる。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

【入居者さんがありのままに生ききるため】に、まずは家族の方の「認知症に対する理解」が必要と考え、サポーター講座を受講していただきました。また、入居者さんはホームの一員である前に地域の一員です。周囲の「認知症に対する理解」は、入居者さんの生活の場を広げることにつながり社会性が高まります。社会性が高まると自信がつき、笑顔が増え、私のままでいいんだ！私のままであり続けたい！と生きぬきたい力が強くなります。そのためホームの取り組みとして、

①認知症サポーター養成講座を町内会・近隣住民に向けて開催しております。
 ②ホーム独自の行事（山王台フェスティバル）を企画・開催し気軽に立ち寄っていただける場所作りをしております。
 ③年に数回「家族と一緒に昼食作りましょう」を行い、家族とのあたたかい関係性が継続できるように努めております。
 ④町内会に入会し役員もつとめ、町内会行事に準備段階からお手伝いしております。また、町内会老人クラブ（寿会）の主催する健康教室にも参加させていただいたりして、入居者さんとの交流があります。
 ⑤地域の幼稚園・小学校・高校・専門学校・福祉系大学との行き来もあり、若い方達のパワーをもらっています。
 ⑥買い物ボランティアさんが来てくれるので、ゆっくりと時間を気にせず買い物外出ができます。

日々、腹の皮が痛くなるぐらい笑い、本気で戦い？楽しくてうれしくて涙し…。入居者さん曰く「笑ったり泣いたり、毎日大騒ぎだナア！！」のホームです。食事と昼寝と夜中の時間だけはとっても静かなホームです。ぜひ一度、お立ち寄りください。（たぶん、急に静かになるとは思いますが…笑）